



RI 第2610地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09年度 No.7 8月20日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

例会記録「お盆早朝例会」



第1436回早朝例会

平成20年8月13日(水) 南砺市谷 浄教寺

1. 点鐘 小西会長(浄教寺本堂の御鈴:『がいもん』にて)
2. お経「嘆仏偈(たんぶつげ)」
3. 卓話紹介「極楽について」高瀬顕正会員(幹事)

4. 会長の時間…「本日は、井波庄川ロータリークラブにとって久しぶりの早朝例会です。昔(騒動前)は瑞泉寺でお盆に早朝例会をしていました。後ほど、幹事で、当浄教寺の住職でもあります高瀬顕正会員に法話を行っていただきます。『お盆』とは、サンスクリット

語で、逆さ吊りという意味だそうです。世の中は、今海外では北京五輪、国内では高校野球と賑やかです。本日は、よろしくお願いします。」



小西会長の開会点鐘・・・お鈴：「がいもん」にて



全員で「嘆仏偈」のお経を唱えました

5. 幹事報告…①地区大会11月16日地区大会の出欠を取っております。よろしくお願いします。②次週(2

0日)は、ガバナー補佐事前訪問です。例会後、クラブ・アッセンブリーがありますので、皆さんよろしくお願いします。③また、翌々週(27日)はガバナー公式訪問です。

6. 委員会報告：出席委員会(代理)・・・25名中17名出席(出席免除者8名中4名出席)・・・出席率80.95%

7. ニコニコBOX(助田SAA：本日12名14,000円)

高瀬幹事：本日は拙寺へようこそ。愚僧の法話も。

小西会長：久しぶりのお盆例会です。

横山幹会員：本日は法話楽しみです。

上田会員：朝起きが心配でした。

三角会員：高瀬会員の法話、楽しみです。

水島会員：朝寝坊心配でした。少し早く来て散歩しました。

福嶋会員：高瀬会員へ、本日はよろしく。

村松会員：幼少時、この寺で遊びました。思い出深い。

坂井会員：朝起きできました。

荒木会員：お盆は予定が無く、のんびりです。

山本会員：在所の寺へようこそ。

助田SAA：高瀬会員、本日はよろしく。

(8月計 21,000円：年度累計 72,000円)

8. 法話「極楽について」・・・後述



高瀬顕正幹事(浄教寺住職)の法話

9. お焼香





1 0. 閉会点鐘：小西会長、ロータリーの鐘



1 1. お斎席：浄教寺のお台所にて

- ・「松屋」の特製そうめん
- ・福嶋会員のお抹茶
- ・川那邊会員のお盆『笹餅』：お土産



卓話内容「極楽について」(高瀬会員：幹事)

高瀬会員：拙寺の由来から話をしますと、初代は順慶といい、高瀬の地にありました。元々天台宗でしたが、この辺のお寺がそうであるように、1472年頃、北陸に來た蓮如上人に感化され、転派し浄土真宗となりました。その後、転寺し、五領に移ったが、3軒しかなく、明治7年に現在の谷に移りました。本堂は大正14年(1925年)に建立され、愚僧顯正が17代当主となります。本堂の軸に「高領山」とあるのは、先代の父浄泉が、高瀬の高と五領の領を取ってつけたものです。

さて、お盆とは、13日が盂蘭盆会と向い盆で、その日に先祖が來られ、16日が送り盆で、歸られるものです。昔、釈迦の弟子に木蓮尊者という人がおり、その母が餓鬼畜生道に落ちたのを、どうにかして救おうと、たくさんの仏僧を呼び、供養したら極楽浄土に參れたという話から、お盆に先祖を供養する慣わしができたということです。

ところで、お釈迦様のおられる極楽浄土に対し、私たちが住んでいる穢土(えど)といいます。極楽浄土がどのくらいはなれているかというと、阿弥陀経では「拾萬億仏土」離れているとあります。ある学者が研究してその距離を科学的に試算したら、宇宙の果て、150億光年の700万倍の所にあるそうです。つまり、我々は自力では、極楽浄土には物理的には絶対にいけないということです。しかし、観無量寿経では「阿弥陀仏去此不遠」と説かれ、お釈迦様はすぐそばにおられる、つまり極楽浄土はすぐそこにあると説かれているのです。それは、手を合わせて念ずるもの、すぐそばにおられるということで、「他力本願」つまりお釈迦様のお力で我々は極楽浄土に參ることができるのです。極楽浄土に參れたらそこで何をするのかというと、仏の教えをよく聞き、残された人に教えを施すのが仕事です。

「日日是好日」(にちにちこれこうじつ)という言葉がありますが、極楽は身近にあると信じて、仏の教えに出会うことが、我々には今大事なことと思います。

最後に例え話を2題します。一つ、昔、金子大栄さんという僧が汽車で隣り合わせた人と話をする中で、その人は「私はまだ70歳で、仏法を聞く年でない」といわれたそうです。もう一つ、昔、太子伝には香具師がたくさん来ていました。鶴は千年・亀は万年といい長生きする縁起のいい動物ですが、太子伝で亀を買った少年が、翌日その亀が死んでしまい、香具師に文句を言ったら、「この亀はちょうど昨日が1万年目だった」といわれたそうです。(山本：要約)

【編集後記】

私たちは年齢で死ぬのではなく、宿命で迎えが來たときに、いつ何時わからないのですが、死ぬのです。普段から、仏の教えに触れて、お釈迦様に導かれ極楽浄土に參りたいものです。(山本武夫：釋求道)